



Title	庭園樹に対する農薬の正しい使い方
Author(s)	奥野, 孝夫
Citation	makoto. 1978, 22, p. 8-8
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86153
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

庭園樹に対する

農薬の正しい使い方

大阪府農林技術センター

主任研究員 奥

野 孝 夫

従来から農作物をはじめ、街路樹や花木・草花などの病害虫防除に、農薬がきわめて多く使用され、大きく貢献してきた。

しかしながら、これらの農薬は近年、環境汚染をはじめ、農薬自身の毒性、対象病害虫に対する薬剤抵抗性の出現など、社会的にも、防除技術的にもいろいろの問題を提起していることは周知のとおりである。

本年も春になって、本格的な農薬の使用時期をむかえ、今一度、農薬の正しい使い方について考えてみよう。

農薬の選び方

病害虫の種類がわかり、防除の時期が決定したら、つぎに最も適切な農薬を選ぶことである。農薬の選択を誤れば、防除効果が発揮できないだけでなく、時には被害などを生じ、大きな損害をこうむることがある。とくに庭園などでは散布区域内に種々の樹木類が入り混っている場

合が多いから、十分注意しなければならぬ。さらに使用場所や対象樹木によって農薬の剤型（液剤・粉剤など）を選ぶことも必要である。樹高の高い樹木や水の不便な場所では液剤よりも粉剤のほうが使いやすしい、逆に庭園樹や街路樹など人家や人間の多いところでは粉剤は飛散して他に悪影響を与えるのでむしろ液剤のほうが望ましい。

なおこの他に天敵に対する影響、対象病害虫の薬剤抵抗性、他剤との混合の可否、価格なども考慮して選択するとよい。

農薬の毒性

近年、農薬の毒性が問題になり、従来から盛んに使われていたBHC・DDT・パラチオンなどが完全に姿を消した。これは急性毒性が強く、散布者自身が中毒を起したり、また慢性毒性が強く、農薬が作物に長期間残って、食品中に残留することや、自然界での生態系を通じ

て環境汚染の原因ともなるからで、このうち庭園樹などの場合はとりわけ、散布者自身の急性毒性が問題になろう。また散布地域近くに人家があったり、人間の多い場合も考えられるのでこの方面にも危被害のないよう十分注意する必要がある。一般には毒物および劇物取締法で定められている「普通物」を使用されることをお勧めしたい。なおさらによく問題になるのは魚毒性である。庭園の泉水のコイやキンギョが全滅したとか、養魚池の魚が死んだとかいうことをよく聞かされる。これは魚毒性を無視して散布した結果である。農薬の毒性は一般的にA・B・Cと分けられ、Aが魚毒性が最も弱いので、泉水や養魚池近くではなるべく魚毒性Aの農薬を使うべきである。

農薬の散布

どんなによく効く農薬でも、かけかた次第で効果がちがって

くる場合も少なくない。普通、

従来から農薬は均一に散布することが最も望ましいとされている。しかしそうでない場合も多い。たとえば葉の裏面にみに寄生するコナジラミやゲンバイムンでは葉の裏面に重点的に、またカイガラムシやコナジラミのように枝・幹の樹皮や凹所に多く寄生するものでは、これらの部位へ重点的に散布する必要がある。散布はなるべく風の少ない時がよいが、一般に液剤では風上から風下に向かって、粉剤では下行気流のある朝か夕方が良いといわれる。また散布と降雨の関係は、散布液がかわいた後の降雨の影響は少なく、それまでの降雨は防除効果を著しく低下さす。このようなときの展着剤の効果は大きい。また散布量は樹の大きさ、整枝法などによって異なるが、普通、散布液がしたたり落ちる一歩手前の程度が最もよいとされている。

以上農薬使用の注意事項を述べたが、要するに農薬にはかならずラベルやちらしがついているから、まずこれをよく読んで、記載事項をよく守って使用する事が最も大切である。

*（大阪府病害虫専門技術員）

お知らせ

当協会事業部では次のとおり血清（治療剤）を常備しております。

- ガスエソ抗毒素（国有ワクチン払下品）
- 乾燥破傷風抗毒素
- 乾燥まひる抗毒素

保管場所
東大阪市中小阪三二八一
一 防疫資材部
☎（06）七二四一〇五三三（代）



★表紙の「つくし」の写真は、当協会遠藤理事の撮影です。
★一時猛威をふるうかと心配されたソ連かぜ（A H I N I型）も、暖冬のためか大流行に至らずと同慶の至りでした。
★執筆して下さいました諸先生方には、公私共お忙しい中、本誌の為に時間をさいて戴き有難うございました。
★陽春と共に衛生害虫等もまた活発な活動を開始します。環境衛生向上のためこれが絶滅を期してのご活躍をお祈りいたします。
（児玉）